

明科北認定こども園保育業務委託についての説明会 概要報告

日時：令和2年9月17日（木） 19時～19時45分

場所：明科北認定こども園 遊戯室 出席保護者9人

進行：子ども支援課保育担当係長

あいさつ（子ども支援課長）

- ・保護者会から出席いただいた2名の審査員には丁寧に審査していただき、感謝する。
- ・本日は委託予定者に、「NPO法人響育の山里くじら雲（以下略して、「くじら雲」）に決定したことを改めてご報告するが、今年度は明科北認定こども園のみ入園説明会を10月末に予定しているので、そのときに令和3年度の引継ぎ保育、令和4年度の本委託業務のより詳細な内容について説明を予定している。
- ・引き続き保護者の皆様にはご協力をお願いします。

- 1 経過報告（配布資料の1を説明）
- 2 保育業務委託予定者の紹介（くじら雲代表：15分程度自己紹介と抱負について）
- 3 今後のスケジュール（配布資料の2と3を説明）
- 4 質疑・応答

保護者：11月13日の入所申込〆切後に、三者協議会で重要な事が決まった場合はどうなるのか。

市：10月末の入園説明会（10月29日、30日に予定）までにくじら雲と市の二者でたたき台としての原案を作った後、三者協議会で保育内容等を決め、入園説明会で説明する。その後、重大な事項が三者協議会で決まるようなことは考えにくいですが、もしあれば市のホームページ、または園を通じて直接周知する。

入所申込提出後も、希望変更は可能で、2月末には2次募集もある。

保護者：特化型と普及型をどのように実施するのか。申し込みのときに、特化型と普及型を保護者が選択して申し込むのか。

市：来年度の引継ぎ保育では、今の明科北の在園児が相当数いることを考えているので、特化型と普及型をする保育士グループがいるというイメージ。詳細な実施方法についてはこれから検討するが、令和4年度については引継ぎ保育期間中の様子をみて判断することもある。申し込み時にはどちらかを選択する形になるが、年度途中でも特化、普及の変更も可能な方法を考える。

保護者：保護者には重要な事項なので、10月末の説明会では示してほしい。

また、今まで依田さんは少人数で手厚い保育をしてきたことはよくわかったが、これから、90人の大人数の園では今までのような個別対応ができるか、説明会ではお聞きしたい。

市：特化型、普及型において、実際どのような保育が行われるのかといった入所判断する上で重要な事項を10月末の説明会でお示し、保護者の方の不安がないようにしていきたい。

閉 会

明科北認定こども園保育業務委託についての説明会 概要報告

日時：令和2年9月24日（木） 19時～20時20分

場所：明科北認定こども園 遊戯室 出席保護者13人

【前半部は前回17日と同内容のため割愛】

4 質疑・応答

保護者：現在のくじら雲の様子はホームページやパンフレットで拝見できるか。パンフレットがあれば配布してほしい。

くじら雲：ホームページでは、日記を更新しているし、後日在園児の保護者にパンフレットを配布する。

保護者：くじら雲へ委託後は園での子どもの受け入れ時間は変わるのか。

市：公立認定こども園であることは変わらないので、他の公立認定こども園と同様に希望者は最長11時間30分預かる体制であることに変わりはない。土曜保育については、現在は公立園3園で集約して実施しているが、今のところ当園で実施の予定はない。

保護者：未満児の保育はどうなるのか。

市：現在の未満児の定員で今後も受け入れをしていく。未満児には特化型保育ではなく、現状の未満児保育を実施していく。

保護者：特化型保育を展開し、人を地域外から呼び込むことで、この地域の活性化を市は考えているということだが、地域の関心は高い。もっと周知とアピールをしてほしい。また、前回説明会ではどんな意見が出たのか。

市：これからも、広報「あづみの」のほか、市ホームページ、回覧版、新聞掲載へのとりあげなど機会に応じて周知していきたい。前回17日の説明会ででた保護者からの意見・質問は、本日の概要と一緒にホームページで報告する予定。

保護者：子どもの検診はこれからも続けてほしい。

市：検診は事業者の判断においてするものではなく、児童福祉法に基づく基準や、安曇野市の認定こども園についての規則で、やらなくてはいけないものと定められており、これからも市が責任を持って実施していく。

保護者：現在のくじら雲の屋外での活動の様子、保護者の行事の参加の様子を教えてほしい。

くじら雲：屋外では近くの長峰山、あやめ公園などの1時間かけての散歩をすることもあるが、近年6月～9月は暑いので、園内や日陰で過ごすこともある。くじら雲では保護者の参加する行事を特定していなく、保護者も行事にいつでも参加してよいという方針で実施している。保護者が多く参加する行事もあるし、ほとんど参加しない行事もある。

保護者：今のくじら雲で保育している子どもとスタッフはどのくらいか。

くじら雲：5歳児が8人、4歳児が7人、3歳児が6名、未満児が1名で合計22人の子どもをスタッフ8名でみている。

保護者：小学校の就学に備えてくじら雲でどんなことをしているのか。

特別読み書きなどはしない。遊びや保育の中で数・足し算・引き算などを覚えていくことや、屋外で絵本を読むことなどはできる。小学校の教諭には「くじら雲の卒園児はしっかりと人の話を聞くことができる」とよく褒められる。話を聞くことができるということは、姿勢が良いことであり、体幹が鍛えられているということである。また、最近の研究では、自然保育で育った子どもの前頭葉の発育についても学術的なデータ研究成果が表れている。くじら雲では自分で判断でき、考えることができる子どもになっていくことに重きをおいている。

閉 会